

令和7年度 第1回苫小牧市スポーツ推進審議会結果報告書

【日時】 令和7年7月14日（月）18時00分 ～ 19時15分

【場所】 市役所5階 第2応接室

【出席】 ▽苫小牧市スポーツ推進審議会委員 11名（12名中）

本間会長、中村副会長、荒井委員、石田委員、伊藤委員、金山委員、中村委員、
西田委員、藤岡委員、米山委員、林崎委員 ※鈴木委員欠席

▼事務局（市）

金澤市長、山田総合政策部長、神保まちづくり推進室長

スポーツ都市推進課：伊藤課長、東梅課長補佐、田中主査、山岸主査
丸谷主事、石山主事、大上主事、前田主事

～～～議事要旨～～～

1 開 会

2 委嘱状の交付

3 市長挨拶

4 委員及び職員自己紹介

5 会長・副会長の選出

- ・立候補や推薦はなく、委員から「事務局一任」との意見が出されたことを受け、事務局から会長に本間委員、副会長に中村（誠）委員を充てる案を提示。異議はなく、事務局案どおり承認された。

6 議 事

(1) 苫小牧市スポーツ推進審議会の概要について

- ・意見なし

(2) 苫小牧市スポーツ推進計画について

- ・意見なし

(3) 苫小牧市スポーツ施設整備計画について

▽西田委員

駅周辺エリアを候補としているが、用地の確保に課題があり「×」とされている。にもかかわらず駅周辺を候補とするのは、何かその目途があるからなのか。

▼伊藤課長

用地の評価で駅周辺エリアを「×」とした理由について、緑ヶ丘には市有地があり用地確保が容易である一方、駅周辺には市有地がなく、用地取得には所有者との交渉が必要となるため。

そのため用地確保に課題はあるが、できないという意味ではなく、交渉を要する点を踏まえた判断である。

▽本間会長

どのくらいの面積を想定しているのか。

▼伊藤課長

延床面積は約15,000平方メートルを予定しており、全体としては25,000～30,000平方メートルの用地を想定している。

▽本間会長

早まることはあり得るか。

▼伊藤課長

整備方針としては、駅周辺エリアでの検討を進めることとしているが、想定事業費は約131.5億円にのぼるため、市の財政シミュレーションに基づく、令和30年以降の着手が適切との見通しである。また、施設の老朽化を踏まえ、民間事業者との連携による整備手法の検討も必要であり、民設民営や官民連携型の先行事例（例：「フラット八戸」）を参考に、収益性や民間活力の活用も視野に入れた運営・整備の在り方を検討していく方針である。

▽中村副会長

新施設の整備までにさらに老朽化が進行することが想定されるが、その点も考慮したうえで、必要な改修を行いつつ対応していく計画となっているか。

▼伊藤課長

現在の整備計画は、令和3年度に各施設の老朽化状況を踏まえて策定されたもので、令和12年度までの対応方針を示している。今後は財政状況などを踏まえ、実行可能な範囲で対応していくことが基本方針となる。

総合体育館については、従来型の整備手法を前提とする場合、大規模改修を行いながら供用を継続する必要がある。一方で、民間活力を活用する整備手法を採用する場合は、供用開始までの暫定的な対応も含め、柔軟な対応が求められる。

また、本計画は令和3年度策定のものであり、来年度に中間年を迎えることから、現状に即した

見直しも検討していく必要がある。

▽本間会長

改修工事が実施された場合、9～12か月の休館が見込まれるが、例えばフロア改修期間中にバスケットボールやバレーボール等の大会がある場合には、学校体育館の活用などにより、他施設に分散して対応する方向で検討しているのか。

▼伊藤課長

約13.4億円規模の修繕を実施する場合、最短で12か月程度の休館が必要としているが、総合体育館の場合、全道・全国規模の大会が開催されることもあり得ることから、実際には競技団体や施設管理者との協議、スケジュール調整が不可欠であり、12か月間全面的に休館するのは現実的ではないとの考えている。

特にフロア改修は影響が大きいと想定されるが、全面的な休止を避け、他の体育館の活用や利用調整を含め、関係団体や学校と連携しながら対応を進めていく必要があると考えている。

(4) 苫小牧市スポーツ推進計画施策事業について

▽本間会長

サッカーリーグの合宿誘致について、どこが主体となって進めているのか。また、次年度からの誘致は難しいのか

▼伊藤課長

市が窓口となって進めている。

複数のチームから視察や意見交換を受けているものの、現時点で具体的な誘致先は決まっていない。今後もプロスポーツ合宿誘致を積極的に進める方針であり、引き続き関係者との意見交換を重ねながら検討を進めていく考えである。

(5) 次期計画策定に向けたアンケート調査の結果について

▽中村委員

仕事をしていない高齢者は、近くにあるパークゴルフ場などで日常的に運動ができているが、仕事や子育てで忙しい若い世代はスポーツをする時間を取りづらいと思う。民間のフィットネスクラブの参加者の年齢層は、どうなっているのか金山委員に尋ねたい。

▽金山委員

弊社は市内で「ジョイフィット」と「フィット365」の2店舗を運営しており、ジョイフィットは月約8,000円でスタジオやお風呂があり主に40代以上の中高齢者が利用、フィット365は月約3,000

円でマシンのみの簡易型ジムで若年層の利用が多い。

苫小牧市内にある民間スポーツクラブの数が人口規模に対して少ない印象がある。今後、民間クラブが参入しやすい環境整備が進めば、運動施設が増え、スポーツ環境が向上すると感じている。

▽西田委員

次期計画の目標設定にあたり、現行計画の振り返りを行うと思われるが、令和6年度までに実施した施策が今回のアンケート結果にどう影響したかなど分析を既に行っているのか。または、今後実施する予定があるのかを確認したい。

▼東梅課長補佐

資料4は、現行のスポーツ推進計画に基づく令和6年度の実施報告であり、各施策の実施状況を示している。今後はこの実施状況とアンケート結果を十分に分析し、次期計画の素案作成に反映させていく予定である。

現時点では、特定の課題点については明言できないが、今後必要に応じて整理・提示していく考えである。

▽本間会長

現計画に掲げられた7つの目標項目は、次期計画でも大きく変更されないと考えられるが、現状では目標値と実績値に大きな乖離が見られる。このため、次期計画策定にあたっては、目標値自体の見直しや、現実的な数値への引き下げも検討の余地があるのではないかと。

▼伊藤課長

目標値について、基本的には引き下げを前提とはせず、引き続きその達成を目指していく方針である。今後は、これまでの実施状況の分析を踏まえた上で、スポーツ都市宣言60周年といった節目も活用し、機運の醸成や周知活動を強化しながら、既存事業や新規事業を通じて参加者の増加や理解促進を図っていきたい。

▽本間会長

現在、レッドイーグルスが独自にボランティアを募集・運営している事例もあり、今後はこうした民間団体との連携を図ることで、ボランティア活動の周知や参加促進につなげられるのではないかと。

▼伊藤課長

今後の検討、参考としたい。

▽中村委員

現在活動している人は今後も継続すると考えられるが、重要なのは、これまで関わりのなかった人や、環境が整わず参加できていない人をどう取り込んでいくかという点である。

金山委員がおっしゃっていた施設との連携であったり、何か周知方法を工夫できれば。

▽金山委員

民間事業者の立場になるが、情報発信に協力することは可能であり、こうした連携が広がることで、スポーツやボランティアに関する情報が市民の目に触れる機会が増える。周知の方法を工夫するだけでも、参加促進に寄与するのではないかな。

▼伊藤課長

そういったことについて、今後検討したい。

▽藤岡委員

現在のアンケートは16歳以上を対象としているが、幼少期からスポーツを習慣化している子どもは、大人になっても継続する傾向がある。今後アンケートを実施する際は、小学生以上を対象に含めることで、より実態を反映したデータが得られ、数値の改善も期待できるのではないかな。

▼東梅課長補佐

今回のアンケートは、年代と人数のバランスを考慮し、一般的な調査手法に基づき16歳以上を対象として実施した。ただし、小中学生の運動習慣や意識に関する情報も重要であり、今後の検討課題として精査していきたい。

▽藤岡委員

アンケート結果については、可能であれば年齢ごとの傾向が分かるような集計・公表があるとより参考になるため、今後の検討をお願いしたい。

▽金山委員

八地区のスポーツフェスティバルは今年度で終了し、来年度以降は各地区の自主的な判断に委ねられる予定だが、これまでの「実施を求める」形から「自主運営」へと移行することで、実施しない地区が出てくるのではないかな。

▼伊藤課長

運営の難しさや関係者からの意見を踏まえ、八地区スポーツフェスティバルについては今年度で一区切りとする判断をした。今後は、スポーツ協会の事業や健康ウォーキング、推進委員によるフ

ロアカーリング・モルック等の地域スポーツ活動へと機会を移行・吸収し、地域コミュニティでのスポーツ参加機会を引き続き創出していく方針である。

▽金山委員

民間として何かバックアップできればと思い質問した。地域密着の運営ができれば、住民の顔が見えて関係づくりにつながると考えている。今後もこうした地域活動には協力できれば。

7 その他

- ・委員からは特になく、事務局から次回開催予定などを伝えた。

8 閉 会